

ニュースレター

# いりおもでの森から

林野庁 九州森林管理局  
西表森林環境保全ふれあいセンター  
平成20年11月発行 NO:16号



ヤエヤマセンニンソウ

## 仲良川で生育しているスギ(名木調査)を調査

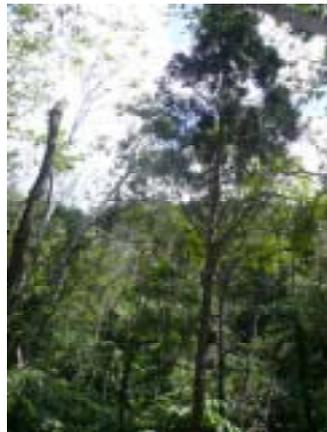
10月6日(月) 西表島西部仲良川上流に生育しているスギを調査しました。

スギは日本特産で、自生地は南限は屋久杉で有名な屋久島とされていますが、今回の調査では、スギの生育地としては日本最南端ではないかと考えられます。

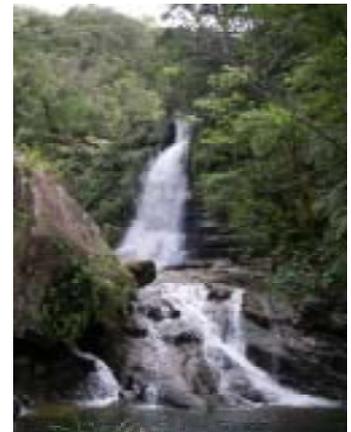
現地はナーラの滝から約500m上流に位置しています。ナーラの滝まではトレッキングコースとして歩道が整備されていますが、滝からは、道なき山中をかき分け進みました。スギが生育している場所は、戦後まもなく仲良作業場が設置(1948.8~1949.6)され燃料用として木炭が作られていた付近のようです。船浮に住む地元の方の話によると、当時、そこには約400名の方が居住されており、スギはその頃に植えられたものと思われます。スギは大小2本あり、大きい方が胸高周囲51cm(直径16cm)、樹高11m、小さい方が胸高周囲21cm(直径6cm)、樹高7mありました。スギ周辺の林内には、缶詰とビール瓶などが散在しており、当時の山中での生活の跡が数多く残されていました。戦後の復興、建築用材及び燃料等の確保のため、このような山中で過ごされた方々のことを思うと頭の下がる思いがしました。



日本最南端?のスギ



大、小2本のスギ



ナーラの滝



仲良川沿いに調査



仲良作業場の宿舎跡



ナーラの滝坪の観光客

## 日本大学の学生が来所

8月19日(火)、独立行政法人林木育種センター西表熱帯林育種技術園で就業体験実習(インターンシップ)を行っている日本大学の学生5名が、当センターを職場訪問のため来所しました。

当センターでは、西表島のマングローブ林でのモニタリング、移入種ギンネムの抑制試験等の自然再生活動、あるいは西表島で実施している森林環境教育等の取り組みについて説明しました。



所長の説明を受ける学生

## 「亜熱帯熱帯森林・林業研究会」に参加・発表

9月5日(金)那覇市において「平成20年度亜熱帯森林・林業研究会」が開催され、当センターからは濱田自然再生指導官が「仲間川・浦内川流域マングローブ林の状況報告」について発表しました。

「亜熱帯森林・林業研究会」は、平成15年3月に、大学、行政、民間の様々な立場から亜熱帯森林・林業に関わる者が、総合的なネットワークに基づく意見交換や技術情報を発表する場の確立のために設立されました。

今回は16課題の研究成果等が発表され、活発な意見や質問などがあり、亜熱帯森林を次世代に引き継ぐための充実した研究会となりました。



発表会場の様子

## 平成20年度ヒナイ川・西田川の利用状況調査(8・9月分)報告

ヒナイ川と西田川の8月期利用状況調査を8月22日(金)26日(火)にそれぞれ実施しました。結果は、ヒナイ川では、カヌーツアーが24組(ガイド含め159名)、レンタルカヌーが1組(2名)計161名、西田川では、カヌーツアーが5組(ガイド含め37名)でした。

夏休みも後半とあって親子連れの利用者が多く見受けられました。親子でカヌーを漕ぐ姿、小学生が1人乗りカヌーを上手に漕ぐ姿と、楽しい家族のふれあう姿が見られました。



また、9月期のヒナイ川の利用状況調査を9月22日(月)に実施しました。結果は、カヌーツアーが27組(ガイド含め180名)、レンタルカヌーが2組(3名)計183名でした。

調査当日は、この夏最後の連休とあって、また、台風の襲来情報も無くカヌー着き場には、この日の累計で133艇が押し寄せ最高の賑わいを見せていました。さて、迷走大型台風13号が9月中旬襲来しました。西表島の直撃は避けられましたが、東部地区の大原、古見方面において風が強かったのか樹木の枝葉飛散などを多く見かけました。西部地区のヒナイ川、ピナイサーラの滝散策コース周辺においては、倒木や落枝などの被害はあまり見受けませんでした。枯れ枝などが樹上に引っかかっている場合があるので、上方確認を行い、安全に配慮した散策を呼びかけました。



## 西表島各学校の名木調査を実施

9月16日(火)から西表島内の各小中学校を訪問し、学校を代表する樹木等について聞き取り調査を実施しました。

各学校で教えて頂いた代表すると思われる樹木については、胸高直径(もしくは根元廻り)及び樹高を測定し、名木集として冊子に編纂することになっています。

また、9月26日(金)には、船浮地区のカマドマのクバデサと地元の方の案内でヤエヤマハマゴウの群生地についても調査しました。

さらに、今回調査した以外にも、船浮地区には名木集に収録したい樹木があることが判明しましたので、今後、日程調整ののちに再調査を行うこととしています。

名木調査は始めたばかりです。西表島に存する巨樹・巨木、地区を代表する木、由緒のある木など、皆様方からの情報の提供を当センターまでお願いします。



西表小中学校のセンダン



船浮小中学校



白浜小中学校



タブノキ(租内)



大原小学校のコバテイシ



古見小学校のガジュマル

## ウブンドルのヤエヤマヤシ調査を実施

10月1日(水)から仲間川中流部のウブンドルのヤエヤマヤシの現状調査を開始しました。初日は、リュウキュウイノシシ、カンムリワシ、オオコウモリなどの動物の出迎えがあり、2日目はイリオモテヤマネコの真新しい糞にも遭遇しました。

今年9月の台風13号、15号は、八重山地方に大きな被害をもたらしましたが、ウブンドルのヤエヤマヤシに至る高台に鎮座していた巨木(オキナウウラジログシ)も例外ではなく、今回の台風で倒れてしまいました。本命のヤエヤマヤシは、枝葉の飛散は見られるものの、倒木に至る個体は少なく、台風による影響は少なかったようです。

ヤエヤマヤシの調査は10月に終了し、その後取りまとめを行う予定です。



ヤエヤマヤシの毎木調査

## 仲間川保全利用協定に基づくモニタリングを支援

10月14日(火) 仲間川保全利用協定に基づくモニタリング(砂泥の移動、幼木の生育)の支援を実施しました。

前回の7月15日以降、西表島には2つの台風が接近し、河川の増水による杭の流出等を懸念しましたが、その心配もなく無事に終了することができました。

また、当日は、沖縄県の広報番組の取材スタッフ等も同乗し、カメラが回る中でのモニタリングでした。



モニタリング調査を取材

# 西表島の樹木

今回は、西表島に自生する天然記念物の植物を紹介します。

## ヤエヤマヤシ (ヤシ科ヤエヤマヤシ属)

学名 : *Satakentia liukuensis*

分布 / 石垣島・西表島に分布

### 生育環境・形態など

西表島、石垣島だけに自生する固有種です。西表島には仲間川上流域のウブンドルのヤエヤマヤシ群落及び星立天然保護区域の一部に群落地が見られます。また、石垣島には米原のヤエヤマヤシ群落があり、3箇所とも国の天然記念物に指定されています。

大きさは、高さ15~20m、径20~30cm。葉は羽状複葉で長さ5m、小葉は線状剣形で長さ60~70cm。雌雄同株で花は4~6月頃に咲き、種子は1cm程度で米粒を一回り大きくしたような形をしています。

西表島、石垣島地方では、公園、街路などによく植栽されています。



ヤエヤマヤシの種子



ウブンドルのヤエヤマヤシ群落地



ヤエヤマヤシ  
(2008.06.21夏至)



ヤエヤマヤシ群落内

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>